

祁答院地域 令和コミュニティトーク 要約

日 時：令和4年7月1日（金） 14：00～16：00

場 所：祁答院公民館 多目的ホール

出席者

市：田中市長、永田副市長、教育長、教育部長、未来政策部次長、祁答院支所長、
秘書広報課長、コミュニティ課長、他

地域：祁答院地域の5地区コミュニティ協議会長をはじめとする地区住民48名
(合計65名の参加)

市政報告 市長

皆さんこんにちは、非常にお忙しい中、また 急に梅雨が明け大変暑い中、多くの皆様が祁答院町地域の市民の皆様と市長の対話集会コミュニティトークにご参集いただきまして本当にありがとうございます。

このコミュニティトークは、市民の皆様の生の声をお聞きして、市政に直接反映しようということで継続的に実施されている仕組みである。

コロナ禍の影響でなかなか開催ができずに、私も就任して今年8か月になるが、令和3年度は11月に甑島で1回だけできた。

市内10会場で実施するが、令和3年度が1回だけ、新年度に入って、祁答院町地域が4回目、これまで入来、樋脇、東郷、祁答院と今年8カ月でやっと5回目が実施できた。

今、少しコロナが落ち着いてきており、精力的に市民の皆様の意見を聞くトークを開催したいと思っている。

改めて新型コロナワクチン接種は、3回目の接種済が12歳以上の方は71%で鹿児島県の鹿児島市、霧島市、鹿屋市と比べても高い。全市民では64%ということで、3回目接種は非常に高い率になっている。

4回目接種も3回目から5カ月後経過したら、順次、接種予約券を皆さんにお送りしますので、希望される方はぜひ4回目の接種をお願いしたいと思っている。

5歳から11歳の子どもたちも、今18%で、1,000名以上が摂取しているので、ご家族でお話をされて希望される方は、子どもたちもワクチン接種をお勧めする。

イベント開催については、このコミュニティトークもなかなかできなかったが、令和4年度は、市主催の会議やイベントは気をつけながら開催していこうというのが大きな方針である。マスク、手洗い、検温、換気などを注意して3年前より時間を短く、場所を狭く、あるいは人数を少なくするなど個別の判断で中止ではなく、市の行事、あるいはコミュニティの行事、自治会の行事も、そういう方針で個別に検討していただきたいというのが令和4年度の市の考え方である。

一昨日、知事が爆発的感染拡大警報から少しレベルを下げて感染状況が落ち着いてきたということの切り替えをしたが、薩摩川内市内では2、3日増加してきており、報道でもあるように施設関係のクラスターが発生し、全体的な収まり具合と、

個別の発生状況が一致しない難しい状況になってきている。

しばらくは、感染予防対策をしながらいろんな会議イベントに取り組むというような状況になる。

マスク着用を推奨しながらではあるが、国の方は、24時間どこでもマスク着用ということではなく、熱中症対策として、子どもたちが通学するときや、クラブ活動で距離が離れている場合はマスクを外すということで、市の職員も、昨日、コロナ対策会議を開催し、通勤の時や、建設部技術者が現場に行き、調査する際にあまりにも暑い場面があるので、その時はマスクを外してもいいなど、必要な場面でマスクを外すということを段階的に実施していこうという状況になってきている。

災害対応のことで申し上げたいのは、一昨年、昨年と線状降水帯の被害が出ており、避難について防災行政無線の屋外屋内の放送を新年度から真夜中でも放送することがある。

これまでしなかったということではないが、災害の見通しとそれから何時までに放送を行ったらいいかというのは非常に判断的に難しく、早めに気象情報を共有して注意喚起の放送をする、あるいは急激に事態が悪化した場合は、真夜中でも放送することがある。

また、このことが真夜中に自宅から避難所に逃げてくださいという意味ではなく、言葉遣いについても安全な場所に身を置くというような言い方になる。

日頃から皆様をお願いしたいのは、自分の住まれている家、働いている事業所が崖下や川の洪水の可能性、危険性があるということを確認されて、もしもの時は、隣の家、自分の家であれば2階など安全な場所を確認し、放送があった場合は安全な場所に身を置く。

市役所も段階に応じて避難所を開設するので、避難所に行ける場合は寄り添って避難所に避難するといった認識をお願いします。

6月11日に梅雨入りし、わずか16日の梅雨期間でもう梅雨明けした。しかしながら、来週初めに台風が来る。水不足も心配であるが十分に注意されるようお願いしたい。

防災関係について市役所の体制を強化し、危機管理の市民安全部長と次長の2人体制の部長級で対応するようにした。

地域でこれまでも実施されているが、各自治会、地区で自主的な防災訓練をされる場合は、支所あるいは市役所にご連絡くだされば視察参加いたします。

大きな課題として、消防団員が全国的に不足しているが、消防団員の確保についても消防後援会、消防と一緒に1人でも確保できるように取り組んでいきたい。

市役所の組織改革について、市長就任から組織改革をしなければならないということを考えており、昨年10月に、祁答院町を含める本土の4支所を連絡調整する当時の企画政策部の次長を配置し、今日は鬼塚次長が出席している。4支所と本庁との連携ということで組織改革を実施した。

光ファイバー網について、今年2月で本土地域と甌島地域で幹線のところには敷設されているので、ご希望の方は引き込みについて関連の会社に連絡して、ご活用いただくようお願いしたい。

これから、5名の地区コミュニティ協議会の会長に地区振興計画の振り返りをお願いしているが、令和4年度と令和5年度、各地で5年間の計画の振り返りをしていただく。

48地区コミュニティにこの計画見直しの担当職員をおいて令和4年度、令和5年度に、令和6年度から5年間の計画を作成する段取りになっている。

その流れの中で市の総合計画も、令和6年度に市議会の審議、議決をいただく流れになっているので、祁答院町を含む48地区の地区振興計画の見直しと、それから市総合計画を令和4年度、令和5年度に、皆さんと市役所、地区と一緒に進んでいくという段取りでいる。

今年の大きな流れで、畜産の盛んな祁答院地域も熱心であるが、和牛能力共進会が52年ぶりに鹿児島で開催されるということで、これも可能な限り精一杯、県と農協関係とタイアップしてやっていきたい。

6月にJA関係から肉用子牛価格の急落に関わる緊急要請書が、私のところにも届いた。県市長会の南九州市に事務局にあり、この鹿児島県の市長会と、町村会が連携して、肉用子牛の価格急落のことと、資材、原油価格、物価高騰について政府への働きかけを実施する段取りになっている。

これまでのまちづくり懇話会という名称からコミュニティトークに変わった。

やり方を少し変更したのは、まず各地区のコミュニティ会長から地区振興計画の振り返りとして、達成できた点と課題を発表していただく。

48地区コミュニティの地区振興計画の見直しがあるということと、他の地区の取り組みの成果と課題をお互いに共有してもらおうという考え方がある。

提出された議題については、まず支所長が答弁を行う。これは事前に、市長会議を開いて十分に考え、議論しており、第1回目の発言は支所長が行うが、当然、私も内容は知っているので、適宜発言を行う。

基本的なコミュニティトークに臨む考え方として、私は市役所OBで、市長就任を1年8か月となるが、市議会と自治組織を非常に重要視している。その自治組織とは、自治会と地区コミュニティで、556自治会と48地区コミュニティであり、課題は人口減少の中で多いが、一体となった形で皆さんと議論をしながら、どういった持続可能な仕組みができるかという議論を続けていきたいと思っている。

地区コミュニティ協議会という名前で48地区あるが、1番小さい地区の人口は30人未満。1番大きいのは、平佐西の1万4,000人。同じ地区コミュニティ協議会という名前であるが、各々その中に自治会があり、自治会の課題、コミュニティの課題というのは千差万別あるので、今日のように個別にお話を聞かせていただき、支所長、あるいは次長がさらに、皆さんの意見を聞き、どういった形がいいかという議論をしていきたい。

自治会の再編という中の1つの合併で、人口減少が続いている。18年前、薩摩川内市誕生の時10万5,000人。今、9万2,000人。18年間で1万3,000人の減少という傾向で、これは我が国、鹿児島県、鹿児島市、薩摩川内市もこの傾向は推計的には続きますので、この減りゆく人口の中で、自治会、地区コミュニティの組織をどうやっていくか。

私も八幡地区という小さな地区で、自治会は30人の限界集落である。最初から

ずっと限界集落で、いいところであるが、この仕組み自体をどのようにしていこうというのは絶えず議論している。

祁答院町地域の中で自治会の合併を議論してみようかという自治会、あるいはコミュニティの中にそういうのがありましたら、市職員も分け入って、皆さんの話を聞いて、それが自主的に望む合併であれば支援していきたいという考え方を持っている。

誤解のないように申し上げると、市長が自治会の合併をと言ったことではなく、共有課題としてそのような自主的な合併の議論があれば、一緒になって聞いて、いい形がないか、課題の整理はないか、市内で既に合併しているところはないか、そのような事例をご紹介したいという意味で申し上げた。

地区振興計画振り返り

【黒木地区】

- ・ 最も良かった事業として、コロナ禍でなかなか実施できていないが、12月18日に第12回黒木暮れの市を開催した。内容は地元産の新鮮な野菜などを軽トラ2台、豚汁、地元中学校の吹奏楽の発表などでコロナ禍の中で開催できたことが良かった。
- ・ うまくいかなかったという点ではないが黒木温泉を管理するようになっているが、1日当たり40人前後と高齢化などにより減少している。年間1万6,000人いた温泉客が1万3,000人と3,000人少なくなっている。
- ・ 黒木温泉は源泉温度47度あるが、距離があるため1度貯蔵タンクに貯めて、灯油を使って再度沸かしている。灯油の単価が高騰しており対策を検討しないと検討できないと考えておりご指導をお願いしたい。
- ・ 黒木の農業を語る会を新規で立ち上げ、令和元年度に1回実施したがコロナの影響でここ2年実施できていない。高齢化になり農業をやめ、その後を誰が作るのか、農地をどうするのかということと話合っている。今年度は、コロナの状況が収まりつつあるので実施したいと前向きに考えている。
- ・ 文化財保存活用ということで、石塔や田の神などを掲載した黒木マップを地域おこし協力隊の協力を得て作成した。ふるさと歩こう会や小中学校で活用していただきたいと考えている。

【上手地区】

- ・ 上手地区は祁答院町のほぼ中心部にあり、平成19年3月に9自治会を5自治会に合併している。
- ・ 水田を中心に大型農業、畜産が多く畜産の後継者もたくさん育ってきている。
- ・ 久富木川沿いには、溝下餅という餅の発祥の地があり、その生産も行われている。
- ・ 平成20年10月に大村高校跡地に社会福祉法人いやしの里、つくし園ができ地域と密着した高齢者施設となっている。施設には温泉もあり無料開放などが行われ大変喜ばれている。
- ・ 人口は、令和4年6月1日現在686人。合併時と比べ268人減少している。

高齢化率は45.5%程度

- 重点3項目の活動状況は、文化財、郷土芸能保存、夏祭りについての3点あり、夏祭りについては癒しの里大村園と地区コミと共同開催ということで実施していたがコロナで実施できないとなり、昨年度は協賛で11月に打ち上げ花火を実施し大変好評であった。今年度も協賛を募り、8月13日に実施したいと考えている。
- 環境対策の充実として、県道沿いに菜花の植栽を行っている。1800本ほどの苗を高齢者クラブや子どもたちと育てている。地区振興計画の中で良かった事業で地区民にも広がりを見せている。
- 不法投棄については、監視や歩こう会の日が高齢者と子どもたちと一緒に空き缶拾いを実施している。
- 健康づくりの促進ということで、自治会対抗のグラウンドゴルフ大会を実施し、コロナ対策として検温、マスク着用の対策をして実施した。また、女性だけのグラウンドゴルフ大会を実施した。
- 大規模な和牛農家があり、課題として排せつ物の問題が出てきている。
- 毎月の定例会、部会をコロナ対策をしながらなるべく実施していきたい。特に女性参加型の事業を考えていきたい。
- 地域で支え合えるまちづくりという考えを持っており、社会福祉協議会では地域支え合い事業を実施しているが、個人ボランティアの登録がいなかったので声掛けを行っている。
- 地区コミュニティ協議会の優良団体ということで北薩地域振興局から表彰された。

【大村地区】

- 大村地区は260戸数5自治会で構成されている。
- 4年前から県と市の事業として久富木川の整備を3年計画で実施していただいております。今年4月に完成した。最下流部には、芝生のグラウンドゴルフ場が整備され、芝生の整地を待っているところである。現在、消防団が7月の操法大会に向けて訓練に励んでいる。今後は、地区全体で有効活用できるように話し合っていきたいと考えている。
- 左岸側の草刈りについては、これまで手作業で実施していたが高齢化に伴い厳しくなってきたため、市の補助金を一部活用して草刈り機を購入して実施している。
- 今後の課題として、新型コロナの影響により地区の行事がほとんど実施されていない。

【轟地区】

- 轟地区は、2自治会しかなくそのうち1つはゴールド集落である。
- 地区コミには3つの部会を設置しており、各部会10名ずつであるが高齢化が進んでいるために構成員の3割が70歳以上となっている。皆さん元気で、各部会の実施についてはうまくいっている。

- ・ 高齢者化が進んでいるために今年度規約改正を実施し、85歳以上の高齢世帯は協議会の会費は免除することとした。
- ・ 地区振興計画の重要3項目の活動の中でうまくいかなかった事業がまるごと支えあい事業であった。高齢者世帯を対象に日常生活の支援、声掛け、防犯パトロール、地区内の清掃など必要な支援を行うとのことで、コーディネーターと作業者を登録し、コーディネーターが作業者を派遣する事業であったが、コーディネーターには賃金があり作業者にはないということで、折り合いがつかずできなかった。
- ・ 令和3年度からは社会福祉協議会の事業となりボランティア作業者を15人程は登録できた。
- ・ 良かった事業としては、轟ふるさとまつり事業として平成26年度から8月11日にお盆の帰省者に合わせて実施しており、食事についても地区民で出店して安い料金で提供している。祁答院中学校の吹奏楽部など若い世代の参加もあり、地区人口の3倍近くの参加があり賑わっている。コロナ禍で中止しているが何とかできるようにしたい
- ・ 文化教養部が中心となって、轟地区の史跡等の看板設置を行っているところである。
- ・ コロナでできないではなく、何とかしてできるという合言葉でやっていきたい。

【蘭牟田地区】

- ・ 蘭牟田地区では総務自治部会、文化教養部会、体育健康福祉部会、地域福祉部会の4部会を中心に活力にあふれ、心豊かに夢膨らむ。住みよい蘭牟田地区を目標に21項目の第4期地区振興計画を作成した。
- ・ しかしながら、コロナの影響で重点項目を含め、約75%の計画が実行できなかった。
- ・ 唯一開催できたのが、地区スポーツ事業で、昨年11月に開催したグランドゴルフ大会で、小学生から高齢者まで大変有意義な時を過ごせた。
- ・ 今後、コロナの状況を見据えながら、可能な限り計画を実行していきたい。

市長コメント

5地区のコミュニティ協議会会長から、総合的な地区振興計画の振り返りと達成できた点と課題について細かく報告いただき、本当にありがとうございます。

黒木地区は、暮れの市が開催できたということで、私も以前参加し、猿回しとか非常にユニークな事業であった記憶がある。課題としては、黒木温泉の運営の問題で利用者減と経費増という報告があった。

上手地区は、菜花による環境美化、畜産の後継者がいらっしゃるということ、特化して、溝下餅は非常に粘りの強い特殊な優れた餅で、私も食したことがある。課題としては人口減少であるが、これは5地区共通で全体的に人口減少と高齢化であるということ、ここ2年間はコロナでイベントに制限がかかっていたというような状況の報告であった。環境に優しい和牛の生産地という事業項目の中で、課題の報告も承った。

大村地区は、県と市のタイアップ事業である久富木川の河川敷整備事業、私も、県議会議員の頃、地元の市議の方と県へ要望した経緯があるが、1つの大きな成果であると思われる。未達成事項で報告書の中にあっただが、人口減少で郷土芸能の継承が難しい面があるということ、コロナでやはりいろんなイベントがやむなく中止というよう報告があった。

轟地区は 高校生も参加したふるさと夏祭りが開催できてよかったということと、社会福祉協議会との調整が必要な高齢者まるとと支え合い事業が課題が残っているという報告であった。

藺牟田地区は、予定されたイベントがコロナでほとんどできなかったが、その中でも、グラウンドゴルフ大会ができたということが、1つの成果としての報告であった。

祁答院町地域で、今5回目のコミュニティトークであるが、一生懸命皆さんが取り組んでいらっしゃるのが 子供に対する地区の子供の育成、見守り、高齢者の見守り、環境美化、文化財保護などに各地で特色あることに取り組んでいる。

コロナ禍でいろんなイベントができなかった中で、令和3年度も注意して開催できたということは、1つの大きな良いことであると思う。

ただの何回も申し上げるが、これは薩摩川内市48区、市街地でも共通事項であり、この人口減少の中でいかに自治会、地区コミのあり方、組織と行事を持続可能にしていくかというのがこれからの大きな課題であると考えている。

今、祁答院町地域の話聞いて目指すべき姿、方向性は、今のコロナ禍を克服して少なくとも、3年前のいろんなイベント、行事、会議を開催することは、1つ大きな目標であると思っている。

これまでの各地区の文化祭、運動会、盆踊りなどを各地区の判断によるが、気をつけながら開催する方向でお願いしたい。

報道もあったが、川内川花火大会も2年中止であったが、いくつか制限エリアを設けて今年実施する。

420年の伝統ある川内大綱引もやむなく2年中止であったが、今年は綱練りと神事だけはやろうということでゼロではない。

今年は消防の操法大会が4年ぶりに開催される。2年に1回の開催になっているが、7月17日に人数を絞って開催できる。

祁答院町地域も他の地域も、今ある資源、施設を活かした地区振興を模索、検討していくべきであると思う。

報告の中にあっただ農業、畜産、きんかんやほおずきなどの園芸、一次産業をベースにしながら、最近特に人気のある藺牟田池のキャンプ場、梅マラソン大会も今年は民間活用で継続できたことや、ホテル祁答院のインバウンドも外国人の方の入国に全国的に制限があったが、国の制限の緩和の中で外国の方や国内の観光客も誘客できるのではないかと考える。

優良な浅田メッシュという企業もあることから、今後も拡大拡張の計画があれば市としても制度の中で支援していきたいと考えている。

地区振興計画を振り返りながら、出された課題については今年からは市職員も関与して、少しでも課題解決して事業や取り組みが持続可能になるように、皆さんと

協議をしていくので、これからも引き続きよろしく申し上げます。

事前提出議題

議題1 河川の寄り洲の除去について【黒木地区】

河川に葦等の繁茂や土砂、流れ石の堆積により、河川の氾濫（水位が上昇し、排水路の排水不良等）が発生し水稻が浸水したところもある。今後、広範囲に河川の氾濫が見込まれることから、早急な除去をお願いしたい。

祁答院支所長

昨年7月～8月の豪雨により市内では複数の公共土木施設（道路・河川）が被災しており、災害査定等の手続きを経て、被災箇所を早期復旧に向けて、工事を実施しているところである。

大王川、南方川、葛川については、県が管理する一級河川であり、今年度、寄り洲除去の工事を発注済みであると県に確認したところである。

市の管理河川である中黒木川は、県が管理する一級河川 大王川に流入する延長約3,000mの準用河川である。

中黒木川と大王川の合流地点については、県が実施する大王川の寄り洲除去に併せて対応する予定である。

なお、合流地点より上流部については、令和元年度及び令和2年度に河川伐採作業を実施しており、定期的な維持管理を実施しているところである。

市長

黒木地区からは、河川の寄り洲の要望であるが、私も市職員、県議会議員13年で各地を回り、1番身の回りの環境整備で多いのが寄り洲除去と竹高木伐採である。

今、支所長が申し上げたように、ご要望の河川については県が発注済み、市管理河川についても対応予定ということでご理解願いたい。

県管理河川、市管理河川も非常に延長が長いので、我々も注意して巡回し、市県議会の方々の陳情にも対応するが、コミュニティの方でも、特にこれはもう防災上、あるいは農業用水上ひどいところがあればお知らせいただきたい。

県管理部分については、市からも直接、北薩地域振興局に要望する。

昨年4月から、県OBの技術副市長の福元がおり、県へのパイプは作っている。

市管理部分も全部というわけにはいかないが、これはもうどうしてもというのがあればこれまでのようにお知らせくださるようお願いしたい。

議題2 県道薩摩祁答院線道路改良工事の継続について【上手地区】

県道薩摩祁答院線については、令和2年度及び3年度に拡幅改良工事が施工され地域住民一同感謝している。

しかしながら、まだ成木田橋から園田橋までの幅員が狭く車での離合が困難で小中学生の通学や浅田メッシュ（株）ほか町内企業等への通勤にも支障をきたしている。今後、安全に通学・通勤が出来るように拡幅改良工事の継続を要望する。

祁答院支所長

県道薩摩祁答院線（396号線）については、園田橋まで拡幅工事が終了しており、ご指摘の成木田橋から園田橋までの区間については現在幅員が狭い状況である。当要望箇所の道路整備については、引き続き、県に要望して参りたい。

【追加意見：上手地区】

幅員改良などをする場合は地権者の同意も必要であると考えているが、調べたところ難しい面もあるようなので、路肩の法面の擁壁などで通行しやすい方法があるのかと思っている。県の要望書なども検討したいと考えている。

市長

路肩の補強や部分的な要望についても、市からも県は伝えたい。

議題3 瀬早川・久富木川からの逆流調整蓋（招き戸）の劣化、招き戸に流れ込む支流について【大村地区】

瀬早川・久富木川には逆流調整蓋（招き戸）が十数ヶ所あるが、現在劣化が進んでおり機能を全く果たしていない状態である。近年、異常気象による自然災害が非常に多い中、地域住民は大変心配している。早急に招き戸及び瀬早川に流れ込む支流側溝、河川上流箇所の調査を実施して頂きたい。

祁答院支所長

一級河川瀬早川及び久富木川に設置されている招き戸については、河川管理者である県の河川管理施設となっているため、上流部の支線側溝と併せて、修繕や撤去等について県と協議を行って参りたい。

また、瀬早川の支流である普通河川井手田川の市道横断部（暗渠 800×800）については、下流が三面水路（800×800）で整備されており、かさ上げ及び張コンクリートを実施した経緯もある。現状は、横断部で倒木等が詰まり、水が暗渠を流れず、道路を越えて流水すると聞いている。そのため暗渠の上流側でごみ詰まりを解消するような構造にできないか検討して参りたい。

市長

招き戸は、県の河川管理施設となっている。ただ、設置主体も色々経緯があって誰の責任のものかについても調べなければならないという状況がある。

撤去してもよいという発言でしたので、設置者、本来の管理者、所有者と協議を行い、撤去を含めて現状調査を行い検討して参りたいと思っているのでお時間をいただきたい。

議題4 県道333号線を横断する轟木用水路の全面改修について【轟地区】

県道333号線を横断する轟用水路については、暗きょう部（道路下）に土砂等が溜まりやすい構造にある。また、大雨の際には流木等も相まって水路を塞ぐ状態にある。

現在は、道路下に潜り、人力で毎年ダンプ10台ほどの堆積土砂や枝葉をかき出し、搬出を行い対応している。また近年では、高齢化・人口減少等の理由により、年々危険かつ厳しい作業となり膨大な時間も要している。

この件について、農政連・土地改良区・振興局等に改修の願いを再三にわたり行っているが改善に至っていない。

抜本的な構造改善が実現し、早期に事態解消がなされることを望む。

祁答院支所長

用水路については、県道の側溝があるため、用水路がサイフォン式となっており、抜本的な構造の変更が非常に困難であることをご理解いただくようお願い申し上げます。

なお、水路の泥上げ等の維持管理については、多面的機能支払交付金での業者委託が可能なことから、ご検討いただきたい。

新たな取組として、今年度以降、市においても年1回程度、土砂浚渫を実施して参りたい。なお、実施に当たっては、その時期等を地元関係者と協議しながら進めさせていただきたい。

市長

この用水路の所有者設置者は、土地改良区ということでその時の県道整備の経緯もあり、今のような事態に及ぶという予想が行きつかなかったのかなと思われる。

今年度以降地元の方と協議し、その詰まった県道下の用水路の中の土砂浚渫を実施することにしているので、この時期というのをお知らせくだされば一緒に実施する。

土地改良区の施設であるので、多面的機能支払交付金を充当して、除去作業もできるという仕組みになっている。

議題5 蘭牟田池周辺の管理について【蘭牟田地区】

外周及び周辺アクセス道路や、登山道、蘭牟田池（水車まで含む）の落石等障害物・倒木・倒竹撤去や、雑草除去等、道路管理が徹底されていない。

桜の立ち枯れ除去と新たな樹木の植栽、飯盛山山頂や登山道眺望確保の為の雑木伐採等整備の徹底を要望する。

また要整備箇所によって主管部所が異なり一貫且つ総合的な維持管理がされていない。整備改善の要望とイベント開催などの窓口を統一し、祁答院地域にとって貴重な観光地としての価値向上に努めていただきたい。

祁答院支所長

蘭牟田池周辺アクセス道路の県道久富木蘭牟田線（405号線）の区間については、鹿児島県北薩振興局建設部が管理する区間であり、引き続き県に雑草等草刈りを行っていただく等、適正な維持管理に努めていただくよう要望して参りたい。

また、蘭牟田池へのアクセス道路である、市道蘭牟田池線及び市道寺前牟田線について、現時点では道路拡幅等の道路整備計画はないが、路面や路肩の整備（補修）については、現場状況等を確認しながら維持補修を実施して参りたい。

同路線における路肩の除草や樹木伐採については、引き続き、イベントの開催前や観光シーズン前に実施するとともに、豪雨及び台風後においては倒木除去や落石撤去を実施して参りたい。

なお、市道藺牟田池線沿いのツツジ等植え込みの剪定については、関係者（公園管理者・道路管理者・指定管理者）と協議のうえ、定期的な整備に努めて参りたい。

維持補修については、定期的な道路パトロールにより、緊急性の高いものから作業を実施していくこととしているが、通行の妨げになるような箇所を発見された場合は、祁答院支所 地域振興課 産業建設グループまでご連絡いただきたい。

また、耕地林務水産課では、毎年度、藺牟田池周辺の管理として3つの作業を業務委託により実施している。

一つ目に、九州自然歩道（735m）の草刈を年4回、

二つ目に、飯盛山周辺の遊歩道（2,040m）及び飯盛山森林広場（5,600㎡）の草刈・清掃作業を年2回、

三つ目に、藺牟田池外輪山遊歩道（5,755m）の草刈・清掃作業を年2回実施している。

十分とまではいかないが、随時対応している状況である。

また、飯盛山山頂や登山道眺望確保のための市有林の支障木伐採についても、市による業務委託で対応している。

令和2年度において、飯盛山山頂からの眺望確保のために狭い範囲であるが、支障木伐採を実施したところである。

今後は、飯盛山山頂の眺望について、要望箇所をお聞きしたので、具体的な対応策を検討して参りたい。

併せて、藺牟田池自然公園内の桜の立ち枯れ除去や新たな植栽についても、今後計画的に進めて参りたい。

藺牟田池を中心とする周辺地域については、本市を代表する重要な観光地とアウトドア体験ができる場所であることから、環境の整備については、支所及び関係機関と連携をとりながら対応して参りたい。

また、イベント開催などの窓口については、本庁観光物産課、祁答院支所長、未来政策部次長のどちらに連絡いただいても対応して参りたい。

市長

藺牟田池は本市の貴重なラムサール条約登録であり、出水市も貴重な条約登録を今回された。

池周辺の旧いこいの村の施設利用の再開、議会の方でもご報告やご質問ありましたが、コロナ禍の中、アウトドアブームでキャンプ利用が増えて、これからも利用者増は想定されている。

市としては藺牟田池周辺の環境整備については、今後もきめ細かく対応していきたい。

藺牟田池に至る市道延長、藺牟田池周辺の藺牟田池一周線は、距離が非常に長いので全部一斉にできないので、特に眺望や往来に支障があるところは、市も気をつけますが、地元の方からもご指摘いただければ、中身を検討して対応していきたい。

フリートーク

【意見：黒木地区】

黒木小の今年の入学式はなかった。聞くところによると来年もないとのことで児童が16名と市内でも一番小さな学校であるということである。

祁答院地区コミュニティ協議会連絡会で子どもが少なくなっており学校再編についても議論しなければならないと議題になった。

各地区でアンケートも実施したが、地区によって温度差があり進展していない状況である。

地区の会合を実施した際に、PTA関係者から聞いたところによるとPTAでも議題になったとのことである。

祁答院町内で生まれる子どもは一桁台と聞いており、小学校の統合や中学校がどうあるべきかについて教育委員会の説明をお願いしたい。

教育長

今週の火曜日に黒木小学校に複式学級のある学校が集まり、複式授業はどうした方が効率よく子どもたちが学力を伸ばせるかという研修を行った。その時は5年2人と6年生3人の算数の授業を行っていた。

昨年度全児童に1人1台配布したタブレットを使って、自分たちの意見を友達に言うという内容であったが、やはり少人数のデメリットというのが、私たちが求めている対話的な考え方によって表現力をつけていくという意味では、広がり期待できない部分があるかもしれない。

メリットとしては、教員の指導が子供一人ひとりに行き届いているということで、子供の力に応じた学習課題の設定が可能で、子供が非常に生き生きと、そして自分の考えを述べているというような印象を持ったところである。

今年、黒木小学校は入学式がなかった。このまま年次的な推移でいくと、今年度が祁答院地区の小学校4校で140人。そして、4年後の令和8年には80ぐらいになる。

中学校は今年度80人で、4年後は78人ぐらいである。

少人数指導による効果は期待できるものの、考えを深めていくという点では、課題もずっと残っていくと思われる。そこで、これから小規模校のメリット、デメリットまとめ、また、保護者の方々の要望とも聞いていきたいと考えている。

現在、教育委員会としては、平成28年に策定した市内の小中学校の再編に関する2次方針の基本方針に従い、今後、統廃合も含めて進めていこうと考えているが、子どもの出生数が極端に少ないと、教育効果を期待できないというような声も保護者の方からあるとすれば、今後もさらに教育委員会としても地元の皆さんと協議を進めていきたいと考えている。

教育部長

中学校については、現状の通りで行くべきものではないかという考え方を思っている。

ただ、小学校については児童数の減少、各学校での教育の状況からすると、地域や保護者の理解と賛同が得られるのであれば、祁答院地域内での統合の議論を進め

るべき時期に来ているのではないかと考えている。

本日は考えの一端を示させていただいたが、今後は祁答院中学校区で地域、保護者の方々を対象に説明会などを開催するなどして、少人数でのメリットやデメリットにも触れながら地域において統合すること、その形について基本的な方向を示し、理解を得ながら統合にあたっての要望や課題とその対応の仕方について、具体的に詰めていく作業が必要ではないかと認識している。

【追加意見：黒木地区】

子供を持つ保護者がどう考えているかというのが1番大事であるので、機会を設けていただき、理解してもらって検討していきたいと思っている。

教育長

各学校の校長、教頭をはじめ、教員の普段の子どもたちへの指導と子供の健全な成長を地域の皆さんが支えてくださっている。

また、地域の方々、コミュニティ協議会会長も、コミュニティスクールの運営委員として深く関わっていただいていることに感謝申し上げている。

教育委員会の考え、保護者の方、地域の方々の意見の合致が見えたら、進めてまいりたい。

【意見：黒木地区】

国において子ども家庭庁が設置されることとなり、薩摩川内市においてもそのようなポジションを設置される考えがないか。

子どもたちを取り巻くとして、いじめ、差別、虐待、貧困など様々な問題を抱えており、重複する問題を一元化することにより、何かあったときにスムーズに対応できる。

市長

人口が毎年全市で700～800人減少数する中で、児童クラブの数、役割は大きなことになってきております。

先日、国で法令が成立し、国策として虐待、いじめ、貧困など、国の縦割りを一元化する庁を国の組織として作ろうということは、ワンストップサービスに向けた大きな取り組みだと思う。

市として国の子ども家庭庁の方針は当然継承し、市の政策として令和5年度以降の仕組み、予算として何ができるかというのは、議会に相談していく。

今その法案が可決されたばかりで、事業の詳細や、それに関する令和4年度の補正予算、令和5年度の新年度予算も全く出てきていないので、細かい情報を取りながら対応を検討してまいりたい。

先ほど、小学校の統廃合の問題も出たが、時代の趨勢としては議論してある選択をしなければならない現実的な問題だと思う。

その中で、生まれてくる一人ひとりの子どもをいかに増やしていくか、生まれてくる子どもたちをいかに健やかにずっと支え合う子育て支援というのは、大きな政策と考えておりますので、国の政策である子ども家庭庁についても、きめ細やかなアンテナを張っていきたいと思っている。

また、児童クラブとの連携でも情報提供がございましたら、市役所にもお知らせください。

【意見：大裏小PTA】

校舎裏山の木の方がだいぶ差しかぶってきて倒木の恐れがあり、子供たちが危険なため整備伐採ができないか。

祁答院支所長

現在、プールの山手の方に重機が入っているが、今週作業に着手した。
通年の管理業務の一環として取り組んでいる。

市長

身近な環境整備については、市役所が気づかない学校現場など、支所長に随時ご連絡いただきたい。

このコミュニティトークも貴重な時間で、大きな要望が出た時は今やりますと言えない部分もある。予算を伴って、要望が出て市長がやりたいからやりますというわけにいかないが、ただ今のような身近な環境整備については、その予算の範囲内のできる分も工夫すればあるので、陳情要望の考え方についてご理解いただきたい。

【意見：裏地区】

県道333号線大村報徳学園そばの幅員、ここの道路幅が狭いために報徳学園の通学児童の方の安全が確保されていないということで道路拡幅を県の方をお願いしているが、なかなか難しいようで、まだ実現に至っていない。

このまま放っておくというわけにはいかないの、拡幅がなされるまでの間、道路標識または道路標示等の追加とかのお願いを要望する。

現状としては、ここの通行制限速度、以前は40km/hであったが、現在50km/hとなっている。あの道路幅で50km/hで往来すると、とても危険である。学園にも確認したが、雨の時に水が溜まったりして、水たまりをよけて道路の方、車道側に、ふくらんで通行、通学をする状況もあるようなので、そういったことも含めて通学路の安全を図ることを検討していただきたい。

狭くなる直前に、スピードを落とせとか、路面にあるが、片側の方にしかなく、大村側には無いので、両方にそういうことができないか。狭くなることにより通学路ということで子供に注意という看板があるが、非常に小さく、それも字が看板自体が劣化して、そういう看板に気づかれている方もほとんどいないので表示を大きくするといったことを検討していただきたい。

祁答院支所長

県道川内祁答院線（333号線）の大村報徳学園下付近については、地元の方々にご協力をいただきながら用地取得に向けて地権者と交渉中である。

今年2月には、県道に倒木の発生が予測されるがあり、地権者の了解を得て一部伐採作業を行ったところである。

当要望箇所の道路整備及び道路標識や道路標示等の拡充・設置については、引き続き、県に要望して参りたい。

市長

スピード制限について、かつて40km/hが今50km/hということで、そうなった経緯も変わった経緯もあると思うが、地元からのご要望であるので、警察か公安委員会にただいまの要望をつないで確認したい。

【意見：藺牟田地区】

藺牟田地区にある特定公共賃貸住宅について、当初、家賃は28,000円から38,000円であったが、現在、4万円から5万円で3軒に空き家が出た。3軒の方々は市外に出て行き人口減少となった。家賃の減額について検討をしていただきたい。

祁答院支所長

特定公共賃貸住宅は、市営住宅と同様に建設時に国庫補助を受けているので、家賃についても公営住宅法の規定に基づく家賃算定方法で決定する必要があり、自治体で自由に家賃等を決定することはできない。

特定公共賃貸住宅は、中堅所得者（158,001円～487,000円）向けに供給している賃貸住宅で、入居者が快適に暮らせるよう市営住宅より広さや設備も充実し、市内全域同様に家賃も高く設定されている。

また、現在の藺牟田地区の特定公共賃貸住宅の入居状況は、19棟19戸のうち15棟15戸で、4棟4戸が空き住宅となっている。優良な住宅環境であるにも関わらず家賃が高いため入居者がなく、空き住宅となっている特定公共賃貸住宅については、用途変更を含めた対応策を国県に相談しながら検討して参りたい。市内全域同様に家賃も高く設定されている。

【意見：黒木地区】

民地のブロック塀が道路に崩壊する恐れがある場所がある。平成30年11月26日に市、北薩地域振興局に出向き対応策を依頼し、それぞれの所有者に何らかの対応をしていただくよう依頼した。持ち主は亡くなっておられますが、今後どう対処されるのか。

祁答院支所長

平成30年度の祁答院地域まちづくり懇話会の議題にあげられた、土留めのブロック塀が市道側に傾いている物件の件である。

建築基準法上、都市計画区域外に存するブロック塀は、県の所管となるため、北薩地域振興局からの文書での改善依頼や訪問し連絡票の投函など適宜行われているが、直接の対話ができている状況ではない状況である。また、県と市（建築住宅課）で補助事業の対象であるかなども含め、現場確認等も行っている。

こうした状況の中、令和3年度末に、当該ブロック塀の関係者より危険ブロック塀等解体撤去促進事業補助金について問い合わせがあり、補助事業の内容を説明したところ、親族等に相談したいということで資料を送付した。については、現在、申請が行われるのを待っている状況である。

【意見：轟地区】

轟地区に宇ケ口河川があるが、大雨のたびに氾濫して田んぼを洗い流す。

現地を見に行っただが、まっすぐなところは改修されているが、下流の方には曲がったところは狭くなっている。狭くなったところから氾濫して田んぼの石積みが壊れそうになっている。

狭くなっているところを広くしてもらうか、曲がったところをまっすぐにしてもらうなどぜひ改修をしていただきたい。

祁答院支所長

河川改修要望の宇ヶ口河川は、市が管理する猿喰川である。

猿喰川は、県が管理する一級河川 久富木川に流入する延長約500mの普通河川である。

令和3年8月の豪雨により、護岸が被災を受けており、令和4年5月末に復旧工事を終えたところである。復旧工事にあたり、協力いただいた地域の皆様には改めてお礼申し上げる。

猿喰川は、狭い河道と湾曲部が連なる山間地域特有の河川形状であり、これまで、越流部に大型土のうを設置するなどして対策を講じてきているところである。

市域全体で河川改修の要望は多く、改修にあたっては、人家の保全を最優先として進める必要があることから、本河川の全体的な河川改修は困難と考えている。

引き続き、河川パトロールや地域の皆様からの情報を通じて、寄り洲の除去等を実施するとともに、関係課と調整のうえ、越流箇所対策や崩壊箇所の修繕等を実施して参りたい。

【意見：上手地区】

祁答院支所の道路維持班の件で、今6名ほどいる。農道等の整備に、従事していただいで助かっている。ただ、年々作業の依頼が増えているのではないかとということで6名を継続した形で維持をしていただきたい。

他地区において、重機、タイヤショベルなどを使って作業をしていて、作業能力がだいぶ違うようである。

祁答院地区でも、土砂や刈った草の除去などをトラックの荷台に積む場合、労力を考えると、そういうものが必要になってきている状況にあると思っているので、検討されているかもしれませんが、早急な導入をお願いしたい。

台風等も考えられる状況になってきており、林道に付随する作業道も祁答院地区にもたくさんある。

その中で、災害が起きた場合に林道の復旧については、市で災害復旧を補助金等で実施できると思うが、作業道等については、復旧作業が地権者しかできないのではないかと思う。墓地や農地などについては、災害復旧対策補助金がある。作業道についても検討できるものでしたら、今、山はだいぶ荒れて、手入れも、作業道の方に行けなくて、作業もしてないところも私共の自治会でもある。いい方法がないものか含めて検討いただきたい。

祁答院支所長

道路維持作業班については、これまで同様に、側溝の泥上げや崩土除去、路肩の土のう積等の軽微な維持修繕について処理対応しているが、ご意見のとおり高齢化

や後継者問題等により、現在では維持管理が大変厳しく、道路維持作業班への依存度が高くなっている状況もある。

令和2年度から、コロナ交付金事業補助金を活用して、通常より2名多い6名で業務を行い、一定の成果を上げていると考えている。

よって、雇用についても、現在の人員を削減することなく雇用継続について検討して参りたい。

ホイールローダ（タイヤショベル）については、今年度中に祁答院地域に常駐させる予定である。より一層作業の効率化が図られるよう取り組んで参りたい。

市長

いわゆる林道に付随する、作業道の災害復旧のことであるが、今言われましたように、いわゆる民地の宅地と墓地などの土砂状況については、災害復旧補助金の要綱がある。

この要綱制定の経緯などを振り返り、そのことが可能かを含めて全庁的に要綱の精査を行う。